



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

# LFPI News Letter

## Winter 2021 No.94

### 日本企業の強みを活かしたグローバル展開を



今回のコロナを経験し、改めて日本人の真面目さ、民度の高さ、素晴らしさを感じます。

4月以降、要請されればちゃんと自粛する、常に必ずマスクをする、GWやお盆休みでも帰省の自粛をするなど、何のペナルティが無くても政府やマスコミからの呼びかけだけで多くの人が真面目に応じて対応する姿を見て、つくづく日本人は世界でも稀な貴重な人種なのではと思います。結果として感染者の推移は様々な要因が絡んでいると思いますが、いずれにしろこのように世界的なパンデミックの中では、それぞれの国民性がよく現れると思います。

さて、昨今の世界を取り巻くグローバル化の波は益々激しく、身近なものになってきており、何事においても世界を視野に入れることが必要不可欠になってきています。そもそも今回のコロナの感染拡大もグローバル化により急速に広まったわけですし、経済の問題、環境の問題など全て繋がっているという感覚は10年前と比べても格段に違っているのではないかと思います。

その意味でグローバル感覚、国際感覚はこれから生きていく上で非常に大事なものだと思うのですが、そもそも国際感覚というものは何なのでしょう。様々な世界の知識、多様性を受け入れる能力、自国に囚われないボーダーレスな考え方など色々挙げられますが、私自身が思うに、一つには自国のことをよく理解、認識し、その良さを実感することなのではないかと思うのです。

私自身過去に中国に6年ほど住み、その他欧米、アジア各国に行き来し、様々な文化に触れることが出来ましたが、異文化に触れるに従って如何に自国のことを理解していないか、世界の中での日本の位置付け、良さを分かっているかという事に気づかされました。そして、やはり大事なことは自国のことをよく知ることが真の国際化に繋がることなんだという思いに至りました。

弊社においても、またLFPIやその他の業界においても様々な形でグローバル展開してきていますが、今こそ日本企業の良さ、日本人の品質やモノにこだわる部分、それを活かしたモノづくりを中心にした企業活動で力を発揮するべきではないかと思います。これからも日本企業の誇りを持って精進して参りたいと思います。まだまだ我々日本企業の活躍の場はこれからだと思います。頑張りましょう。

安積濾紙株式会社

## 第24回定時総会

10月28日、第24回定時総会および関西シンポジウム2020が、ホテル プラザオーサカにて開催された。新型コロナウイルス感染予防のため、会場参加者の人数を抑えると共にオンライン参加を併用し、計48名が参加して行われた。

第一号議案「第24期の事業報告及び会計報告」では、コロナの影響で多くの計画行事が中止(次期延期)となり、委員会の開催も一時見合わせられたが、Web開催での再開実績等が報告され、会計報告と併せて承認された。

第二号議案「定款変更」では、新たな「外部アドバイザー」の制定及び事務所変更に伴う変更が承認された。

第三号議案「役員改選」では、第25期の新任として、株式会社ニシヤマの重塚健氏が理事に、大阪府立大学の岩田名誉教授がアドバイザーに、書家の木積凜穂氏が外部アドバイザーにそれぞれ推薦され承認された。

第四号議案「第25期の事業計画と予算案」では、はじめに細谷代表幹事からコロナ禍における第25期の幹事会の運営方針及び目標が発表され、引続き各委員長からもコロナ禍を踏まえた第25期の計画、目標、メンバー構成等が発表され、予算案と併せて承認された。

### 【表彰】

表彰式では団体表彰として、新菱アクアエア株式会社・オリエンタル酵母工業株式会社・ライト工業株式会社の3社が、個人表彰として、植野聖視氏、江田庸宏氏、川崎真生氏、菊池隆氏、鈴木こずえ氏、松岡正輝氏、松田秀夫氏、森隆志氏、山内学氏、渡辺直行氏の10名(所属、敬称略)が表彰された。

〈LFPI事務局長 諏訪 秀行〉



定時総会で初めて併用されたりモート会議



表彰者

# LFPIシンポジウム2020 in KANSAIを終えて

新型コロナの影響で行事を一律的に中止するのではなく、感染予防に努めたうえで、できる形を検討して開催していくというLFPIの方針のもと、コロナ禍の最中でしたが、シンポジウム2020 in KANSAIを開催いたしました。大阪の会場への参加者32名とweb参加者14名をあわせて46名の方に参加していただき、参加者のみなさまからは大変な好評をいただきながら終えることができました。開催の約半年前より始めた企画から当日の準備、実行まで尽力をいただきました、安積濾紙の白石様、大塚実業の松田様、関西金網の石川様、東洋スクリーン工業の阿部様、トーケミの安達様、阪倉様そして参加いただきました皆様に感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

また、開催から3週間以上が経過しましたが、参加者の新型コロナの感染の報告はなく、会場並びに参加者の感染防止対策に問題はなかったと胸を撫でおろしています。これも会場のホテル関係者の方、実行委員そして参加いただいたみなさまの感染防止対策への協力のおかげと感謝申し上げます。

さて、シンポジウム2020 in KANSAIの講演会の内容と講演者の方は次の通りです。

## 講演会(1日目) ホテル プラザオーサカ

- ◇SDGs先進都市に向けた大阪府の取組み 大阪府 政策企画部 企画室推進課 課長補佐 仲平 浩祥 様
- ◇afterコロナ時代の飲食店が果たすべき役割とは 千房ホールディングス(株) 代表取締役社長 中井 貫二 様
- ◇自然治癒力を高める再生医療からみたライフサイエンス・メディカルイノベーション 京都大学ウィルス・再生医科学研究所 教授 田畑 泰彦 様

## 見学会(2日目) けいはんな学研都市

- ◇お茶の歴史、世界のお茶(場所: 福寿園 CHA遊学パーク)
- ◇ロボット技術センター/ミクロ多孔質セラミック膜製造装置/プロセス シミュレーション(場所: けいはんなオープンイノベーションセンター) イーセップ株式会社 代表取締役兼CTO 澤村 健一 様

それぞれの内容については、担当者各位から報告いただきますが、参加いただいた方からはいずれも大変好評をいただけたと感じております。コロナ禍でなければより多くの方に会場で講演・聴講をいただけたかと思いと、口惜しいところではございますが、これも何かの因果と感じ、また次への希望といたします。

少し気が早いかもしれませんが、次回のシンポジウムは2024年10月の予定です。今回の大阪府様の講演内容にも含まれておりましたが、2025年4月から予定されている「大阪・関西万博」から長岡会長からは「次回も関西で！」という声もお聞きしています。いずれにせよ、4年後にはコロナ禍が大事なく終息して参加者が倍増し、今回のシンポジウム2020 in KANSAIのことを思い出として懐かしんでいることを切に願っております。

2020年11月25日

(代表幹事 株式会社トーケミ 細谷 卓也)



# シンポジウム講演会報告

- 日時：2020年10月28日 14時30分～18時30分
- 場所：ホテル プラザオーサカ

## 1. SDGs先進都市に向けた大阪府の取り組み

講演者：大阪府 政策企画部 企画室推進課 課長補佐 仲平 浩祥 様

本講演では、①SDGsの概略 ②大阪府様の取り組み ③SDGsに取り組むことでの企業側のメリット ④取り組みをされている企業様の事例 などをご講演いただき、SDGsに関する理解が深まったと思います。

抜粋になりますが、以下内容をご講演いただきました。

### ① SDGsの概略

- 17の持続可能な開発のためのゴールと、169のターゲットから構成される。
- ひとつひとつのゴールは独立したものではなく他のゴールと関連性があること。
- 誰一人も取り残さない。
- 経済、社会及び環境の三側面を調和させるもの。

### ② 大阪府様のSDGsに対する取り組み

- 2025年開催の大阪万博のテーマとして「いのち輝く未来社会のデザイン」⇨SDGsの達成された社会、と設定された。
- 重点ゴール①として健康と福祉、重点ゴール②として持続可能都市を設定された。
- 2025年までにSDGs先進都市としての基盤を整え、2030年までにSDGs先進都市を実現する。

### ③ SDGsに取り組むことで企業側が受けるメリット

- 将来のビジネスチャンスの見極め
- 企業の持続可能性に関わる価値の向上
- ステークホルダーとの関係強化
- 社会と市場の安定化
- 共通言語の使用と目的の共有
- 大阪府様の方でSDGsビジネス支援としてチャレンジ応援資金、SDGs Business Meet-UP 2020等のご紹介。

### ④ 実際にSDGsの取り組みを行っている企業様の事例

- Dari K株式会社(京都)、FM802(大阪)、FM COCOLO(大阪)などのご紹介



〈報告者：大塚実業株式会社 松田 直樹〉

## 2. afterコロナ時代の飲食店が果たすべき役割とは

講演者：千房ホールディングス株式会社 代表取締役社長 中井 貫二 様

関西を中心に国内68店舗、海外7店舗のお好み焼き店を展開する千房株式会社の、生い立ちから経営方針、そしてコロナとの共生について、中井社長にお話しいただきました。

中井社長は、跡継ぎであった長兄の急逝に伴い、大手証券会社を退職されて同社に入社されました。新人もベテランも対等で顧客にその場で評価されるという、証券会社との大きな相違点に飲食業の醍醐味を感じられたそうです。

飲食業の要諦は、マニュアルにはない顧客の想定を大幅に上回るサービスを見返りを期待せずに行うこと。これを実現するために、教える側も教わる側も真剣勝負の人財共育(共に育つ)と涙の表彰式を執り行うそうです。

また、同社では有志企業を約100社募って出所者の採用と自立更生を支援されています。今回のコロナ禍では従業員に「安心して。一人もクビにしない」とメールをされたそうで、幼い頃に創業社長から「従業員のお陰で生活できている」と教えられた中井社長の哲学を垣間見ました。

講演終了後は、経営者の方々からアドバイスを乞う質問が多数寄せられました。コロナを千載一遇のチャンスと捉え、千房らしさを生かして大きく飛躍されることを期待しています。



〈報告者：関西金網株式会社 石川 敏〉

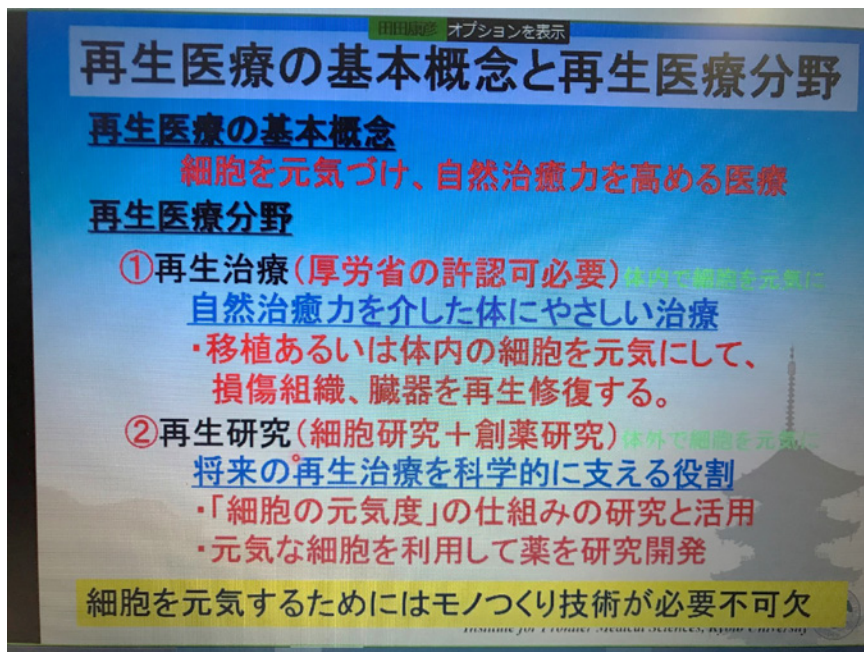
### 3. 自然治癒力を高める再生医療から見たライフサイエンス・メディカルイノベーション

講演者：京都大学 教授 田畑 泰彦 様

ライフサイエンスにはさまざまな技術が利用されており、そこから派生した技術が生活にも数多く使われているということでした。例えば、医療技術である薬を体内で適切なタイミングで放出するDDS(ドラッグデリバリーシステム)は、ちょうどよいタイミングで柔軟剤が放出される洗濯用洗剤に利用されたり、生体親和性が高い材料などは肌にも良いということで化粧品に利用されているそうです。

再生治療の話では、日本でIPS細胞を使った治療のみが再生医療とされているが、細胞の持つ自然治癒力を高めて病気を治す治療方法であれば、どんな方法でも再生医療になるとのことでした。例えば、ゼラチンを使って体の組織を再生させる方法も再生治療とのことでした。これらには医療用材料に限らず、フィルターなどの工業製品にも流用可能とのことでした。

また、大学の研究だけでは多くの人を救えないので、医学、薬学、工学の分野の知識と工業化の技術が必要となり、現在も70社以上の様々な企業と再生医療分野の研究を続けておられるとのことでした。そのため、会員企業のみならず再生医療分野に興味がおありでしたら、いつでもお声がけくださいとのことでした。



〈報告者：安積濾紙株式会社 辻本 政志〉

# 第24回定時総会 関西シンポジウム2020 見学会報告

日 時：2020年10月29日 9時40分～15時00分

内 容：福寿園CHA遊学パーク、けいはんなオープンイノベーションセンター

テ ー マ：茶を通じた「人と人」「人と文化」「文化と文化」の出会い

参 加 者：18名

LFPIシンポジウム2日目は、兵庫県尼崎市よりバスにて京都府けいはんな学研都市に移動し、福寿園CHA遊学パーク様、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)様の2か所を訪問し、見学及び体験を行いました。昼食は会場近くのホテル内カフェラインにてバイキングを頂きました。

## 1. お茶の歴史・世界のお茶(10時00分～11時45分／福寿園CHA遊学パーク)

「朝茶は福が増す」ということわざがあります。朝茶の習慣は幸運を招き、あらゆる災難から身を守る生活の知恵として、古くから伝えられているそうです。見学会は、そんなお茶に関するお話を伺いつつ、最高級の茶葉を使用した朝茶をいただきスタートしました。

まず、お茶の歴史や種類、製造工程や福寿園さんの歴史などをパネルと映像を使って紹介して頂き、実際にお茶の香りを感じたり、茶もみ、ほうじ茶作りとお茶体験をした後は、世界のティーライフを見学です。文化圏ごとに6つのブースに分けて展示されたティーセットは、全く異なる雰囲気でありながらも「茶」でつながっているという不思議な感覚にとらわれます。最後は、全員で抹茶一服体験です。椅子席で気軽にお抹茶とお菓子をいただきながら、各テーブルごとに交流を深め見学会は終了しました。

皆様がお土産をご覧になる様子を拝見し、皆様とお茶の出会いが叶った見学会になったのかな、と思えた会でした。



福を招くという「朝茶」からスタートした見学会



「茶もみ」と「ほうじ茶づくり」の体験

〈報告者：株式会社トーケミ 安達 育世〉

## 2. けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK) 見学 (13:00~15:00)

はじめに京都産業21コーディネーターの竹島様より、けいはんな都市の成り立ちからセンターの役割の説明があり、次にセンター入居企業のイーセップ株式会社代表取締役兼CTOの澤村健一様より、会社概要と取り組みについてのご説明がありました。同社は、膜分離システムの設計、開発、販売を中心に、今後より多くの需要が見込まれるナノ多孔性セラミック分離膜開発に注力されており、興味深い内容でした。

続いて、センター施設内ロボットセンターにてドローン、歩行型ロボット、高精度モーションキャプチャー、5Gなど先端技術に触れることができました。その後、イーセップ殿の研究施設を見学しました。ここでは県内の企業に施設の提供をしており、上記設備を利用してもらいながら企業の研究促進に繋がられています。特に5Gは今後大いに利用価値が出てくるものと考えられました。

今回は新型コロナの影響の中、いろいろと配慮が必要な状況での見学会となりましたが、ご参加頂きました会員企業の皆様ありがとうございました。大変有意義な見学会となり、無事終えることができましたことに感謝申し上げます。



KICK (けいはんなオープンイノベーションセンター) の見学



福寿園の見学

〈報告者：東洋スクリーン工業株式会社 阿部 昌明〉

## 企業紹介 齋藤遠心機工業株式会社

弊社は、遠心分離機の専門メーカーです。設計から機械加工、組立、アフターサービスまでを一貫して自社で行っています。

ディスク式遠心機を国産でいち早く製造・販売を開始した会社であり、創業以来今日まで79年間、遠心分離機一筋です。ディスク式遠心機は、国産では製造を行っている競合他社がほぼおらず、小型から大型機種までラインナップしているのは当社のみです。ディスク式のみならず、様々なタイプの遠心分離機を製造しております。

食品、飲料が主なマーケットですが、それ以外にも排水処理用途や化学、工業分野においても実績があります。比重差のある、液-固分離や、液-液分離、液-液-固を連続的かつ自動で分離ができるのが強みで、省力化や省人化の検討において、お役立ちできることがあれば幸いです。

最近では、液中のミクロン大の粗大粒子の除去等、精密分離の分野においてもお引き合いを頂いております。完全受注生産ですので、細かい仕様のご要望や、ユニット化等のご相談にも対応いたします。具体的な用途や実績については、お気軽にお問い合わせください。

東京の羽田空港すぐそばに工場を構えておりますので、ご興味のお持ちの方がいらっしゃいましたら、都内出張ついでにでもお気軽にお立ち寄りください。

〈齋藤遠心機工業株式会社 生産本部長 齋藤 晃〉



## 企業紹介

# JNCフィルター株式会社

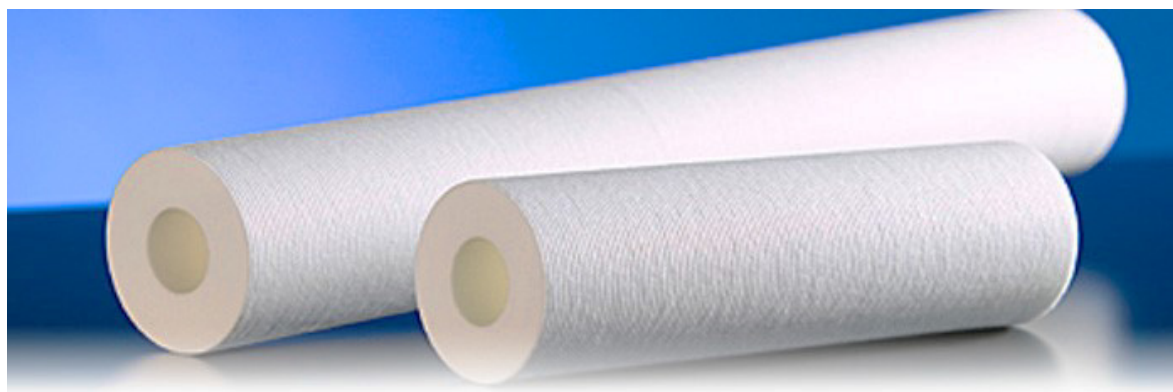
当社は、1995年チッソ株式会社繊維事業部のフィルタ部門からチッソフィルター株式会社として独立し、チッソ株式会社がJNC株式会社へと名称変更するにあわせて、2011年JNCフィルター株式会社となりました。

当社の強みは、自社及びJNCグループ内に繊維材料を持っていることです。更にその繊維材料の元となるプラスチック樹脂もJNCグループ内から調達しており、原料から吟味した一貫生産を得意としております。

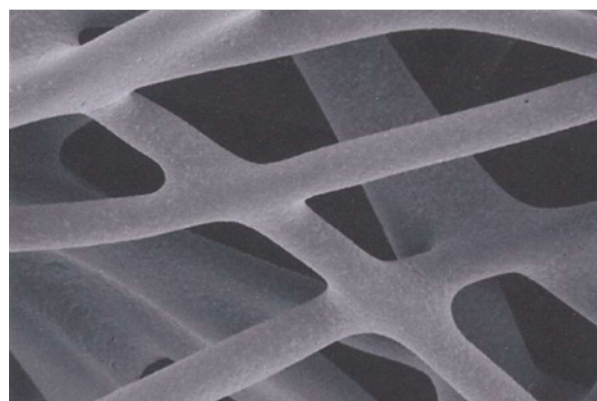
現在でも製造販売している「クリアル®CPフィルター」は、1977年に前身のチッソ株式会社から販売開始された歴史ある(?)製品であり、現在も国内外の多くのユーザー様にご使用されております。この製品の特長は繊維状態を保ちながら各繊維同士が接着していることで、耐圧性が高く、ろ材の脱落が無いことです。使用している繊維材料は全てJNCグループ内のもので、様々な角度からろ過への適性を考慮した製品ですので、これだけの長い期間ご愛用いただけているのだと自負しております。

当社ではその繊維技術を生かして、日々、新しいフィルター製品を探求しておりますので、LFPI会員の各社様へも是非お役に立てればと思っております。今後とも、何卒、宜しくお願いいたします。

〈JNCフィルター株式会社 開発部 川崎 真生〉



クリアル®CPフィルター



繊維同士の接着状態



## <進化する電動アシスト自転車(e-bike)>

長岡会長にお誘いいただき、昨年、入会しました。初めての寄稿に相応しいか分かりませんが、最近私が興味を持っているe-bikeについてお話します。

e-bikeとは、一般にクロスバイクやロードバイク、MTBなどの車体に高回転型ドライブユニットを搭載した電動アシスト自転車で、今、欧州を中心にブームとなっています。日本で電動アシスト自転車といえば、国内固有の軽快車(いわゆるママチャリ)をベースとした実用車ですが、e-bikeはモデルによって悪路走破性や長距離巡航性が高く、例えば、体力差のある人同士と一緒に遠出をしたり、トレーニングもせずにいきなり峠の絶景スポットを爽快に駆け抜けたりと、自転車の「楽しい部分」だけを手軽に体感できます。また、行動範囲が広がるe-bikeには、地方都市における公共交通機関に代わる簡便で安全な移動手段として期待する向きもあり、その存在価値は社会的にも高まりつつあります。

e-bikeのルーツとなる初代電動アシスト自転車は四半世紀前に日本で誕生し、その設計思想を広げることで多様な進化を遂げてきました。最近はe-bikeをレンタルできる観光施設が増えていますので、皆さんも、機会があれば、試乗してみてくださいはいかがでしょうか。



愛用している  
電動アシスト自転車  
※e-bikeではありません

## （ 除菌、殺菌、抗菌と アルコール消毒 ）

昨年1月9日に世界保健機構(WHO)が新型コロナウイルスに関する声明を發してからちょうど1年が経ちました。しかし未だパンデミックは収まる気配を見せず、経済活動や人々の行動に大きな影響を及ぼし続けています。そんな世の中に今、抗菌グッズや除菌グッズが溢れています。私たちは本当にその効果を理解して使っているのでしょうか？ そもそも除菌、殺菌、抗菌とは何が違うのでしょうか。

**除菌**：除菌とは菌を除去(排除)する作用の事で、つまり菌を殺すのではなく除去することを指しますので、手洗いやうがいも除菌と言えます。

**殺菌**：殺菌とは文字通り菌を殺す作用の事です。しかし全ての菌を殺すことではなく、ある特定の1種類の菌を殺す場合でも殺菌と言います。

**抗菌**：抗菌は菌を殺すでも除去するでもなく、菌の増殖(繁殖)を抑える作用の事です。除菌や殺菌の効果はありません。

つまり強力な順で 殺菌>除菌>抗菌 ということになります。ウイルス対策グッズはその効果を理解したうえで選択&使用することが重要になります。

一方「消毒」という言葉もあります。消毒とは有害な物質を除去あるいは無害化することで、除菌や殺菌も消毒に含まれます。

消毒でまず思いつくのはアルコール(エタノール)消毒ではないでしょうか。しかしどんなアルコールでも良いというわけではないようです。

WHOのガイドラインでは60~80vol%のエタノールとなっています。しかしこれは西暦2000年以前のいくつかの実験データに基づくもので、試験方法に統一性がありませんでした。この現状を踏まえ、東京医療保健大学の神明氏らが、論文「殺菌・抗ウイルス効果に及ぼすエタノール濃度の影響」(2019年3月11日)で、医療関連感染で重要な細菌・

真菌・抗酸菌の殺菌効果、および抗ウイルス効果に対するエタノール濃度の影響を検討することで有効最小濃度を確認しました。この論文ではエタノール63vol%以上であれば様々な菌、ウイルスに対して殺菌効果が期待できると結論付けています。またその殺菌効果は77vol%で最大値となり、80vol%以上では殺菌効果が減退するとされていることから、WHOのガイドラインは正しいということが証明されました。もちろん低濃度のアルコールでもある程度の殺菌効果はありますが、かなりの時間を要するうえ、30vol%以下ではほとんど殺菌効果は期待できません。

「消毒用エタノール」の他に「消毒用エタノールIP」というものが売っているのを目にした方も多いのではないでしょうか？しかもずいぶん御手頃価格で。そうすると日本人の「安かろう悪かろう」的な思想で、ついつい値段の高い「消毒用エタノール」に手が伸びてしまいませんか？しかし「消毒用エタノール」と「消毒用エタノールIP」の消毒効果は変わりません。どちらもエタノールの含有量は76~81vol%程度で変わらないのですが、「消毒用エタノールIP」にはイソプロパノールが含まれています。エタノールは第一級アルコールであるのに対し、イソプロパノールは第二級アルコールのため酒税がかかりません。つまり価格の違いは税金だということです。

化学薬品メーカーである弊社では新人教育の時に「化学薬品は正しい知識で正しく取り扱い、そして正しく恐れなさい」と教えています。新型コロナウイルスに対しても同じことが言えるのではないのでしょうか。

「オレは毎晩アルコール消毒してるから大丈夫」などと飲兵衛的な発想は間違えだと御理解いただけましたか？(笑)

〈メルテックス株式会社 初川 拓朗〉

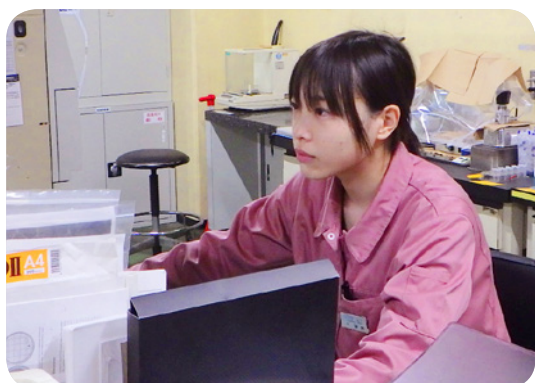




# 私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

## ユニチカ株式会社



### 自分で考え行動できる社会人に

中央研究所 機能材料グループ 平井 みほ

私は、自分で物事を考えて行動するというのがとても苦手です。できることなら言われたことだけをやりたい、と常々思っています。しかし、社会人になって約2年たった今日ではその思いも変化してきました。

私の主な業務は、中空糸膜の性能評価です。入社した当初、性能評価業務には自分で考えて行動する場面はほとんど無いだろうと考えていました。しかし、全くそんなことはありませんでした。そもそも、私が担当している新たな開発品の性能評価が始まったのが私の入社とほぼ同時だったのです。そのため、今後どのような装置を使いどのような条件で評価を行っていくのか、一から考える必要がありました。その状況を知ってとてもゾッとしましたが、この時は私もまだ中空糸膜について右も左もわからない状態であったため、先輩方と考えることになりました。その後、(ほとんど先輩方のアイデアですが)装置や方法を考え、試験を繰り返し評価方法を確立させることができました。

現在の私は、一人で考えて行動することが増えました。一人で突っ走ってしまい、あとで色々指摘を受けてしまうくらいです。(報連相は重要だと再認識しました…。)このように変わった一番大きい理由は、上司や先輩方の働き方をカッコいいと思ってしまったことです。自分で物事を考えて行動する人をカッコいいと思ってしまいました。どうせなら私もカッコいい大人になりたい、上司や先輩方のような働き方をしたい、と今ではそういう思い業務に取り組んでいます。



私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

## NGKフィルテック株式会社



### 膜ろ過装置の設計を通して お客様の課題解決に貢献

技術1部 プロセス課 大河内 慧

当社は製薬用水設備や膜ろ過装置などを製作していますが、私は主にセラミック製の精密ろ過膜や限外ろ過膜(日本ガイシ製)を使用した膜ろ過装置の基本設計を担当しています。

セラミック膜は官需である浄水分野で採用が進んでいますが、この分野で使用されるフィルターはφ180×1.5m長の大型膜となります。一方、当社が使用する主に民需向け膜ろ過装置のフィルターはφ30×1m長の小型膜となりますが、高い分離精度と耐食性を有しているため、食品や化学材料の製造工程で数多くご採用頂いております。

膜ろ過装置の設計のためには、お客様の実際の原液によるろ過試験が必須です。私は昨年7月より現職に就いていますが、このコロナ禍でもお客様からの引き合い案件が途切れることは無く、既に数社のろ過試験を担当してきました。ろ過試験では上手に処理ができず膜が詰まってしまうたり、薬液による膜洗浄再生が困難であったりして、使い物にならないケースの方が多いのですが、膜孔径やろ過条件を変化させながら試験を繰り返して、お客様のご要望通りのろ過や精製処理ができた時には最大の喜びと達成感が得られます。

また、ろ過試験の結果よりセラミック膜の改善点をまとめ、製造元である日本ガイシにフィードバックして新たな膜開発に結び付けることは、膜ろ過プロセスを広めていくための重要な役割を担っていると感じています。

巷ではSDGsやESG、また発酵による化学品製造プロセスであるバイオエコノミーがキーワードとなっています。そのような環境配慮型の生産プロセスに少しでも私たちの膜分離技術がお役に立てればと思っています。

## 会からのお知らせ

### ★LFPI事務局の交代および事務所移転のお知らせ

2020年7月開催の理事会での協議・承認に基づき、同10月に本会事務局の交代および事務所移転を行いましたので、以下の通り報告いたします。

#### 1. 事務局

変更前：ラリー技術秘書事務所内 吉川 ユミ

変更後：**ゼオプラントサービス株式会社内**  
安達 育世

#### 2. 事務所

移転前：〒194-0032 東京都町田市本町田  
2078-14  
TEL：042-720-4402  
FAX：042-710-9176  
E-mail：office@lfpi.org

移転後：〒532-0021 大阪府大阪市淀川区  
田川北1-12-11  
TEL：06-6308-1011  
FAX：06-6308-1099  
E-mail：lfpi\_03@lfpi.org

皆様には今後とも当会の活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 編 集 後 記

LFPI会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナに翻弄された一年で、皆様におかれましても公私とも大変な御苦労をされたことと思います。しかしそんな中でも少しは良いこともありました。例えば時短勤務や在宅勤務などの働き方改革が一気に進んだことや、それによって家族との時間が増えたことなどです。反面、親戚や友人との会食や、イベント等の非日常空間がどれだけ大切なものであったのかを痛感させられました。

このコロナ禍はいつまで続くのか？アマビエの加護は本当にあるのか？それは誰にもわかりませんが、今更悲観的になってもしょうがありません。こんな時こそポジティブシンキング！こんな時だからこそ大きなチャンスが転がっているかもしれません！LFPI会員の皆様が大きなチャンスを掴み、大きな飛躍を遂げられますよう広報委員一同お祈り申し上げます。

〈メルテックス株式会社 初川 拓朗〉

◆ 編集／発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会  
◆ TEL：06-6308-1011 FAX：06-6308-1099

◆ 住所：〒532-0021 大阪府大阪市淀川区田川北1-12-11  
◆ LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>